

家畜暑熱対策情報

節電やピークシフトを組み合わせ 暑熱対策に取り組もう！！



本年も、家畜の暑熱ストレス対策の時期になりましたが、電力供給が充分でないため節電も意識した対応が求められています。

畜舎環境と飼養管理のポイントをまとめましたので、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりに取り組みましょう。

《 1 畜舎環境の改善 》

- 屋根からの射熱を抑えるため、屋根面に間欠散水したり、寒冷紗の敷設、消石灰等を屋根へ塗布をしましょう。

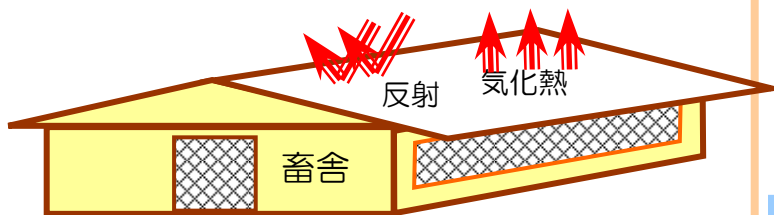


小スプリンクラー

- 熱射を入れないよう、南・西側にはつる性植物でグリーンカーテンや遮光ネットで、日よけを広く設置しましょう。



グリーンカーテンの例



- 細霧装置を組合せた換気と送風を効果的に活用しましょう。



ダクト外換気の例



遮光ネットの日よけ

- 最大電力を下げるよう大電力消費機械の同時使用は避けましょう。



シカバルクラー使用時は、他の電力使用を避ける

- 畜舎内外の片づけをして、風通しを良くしましょう。
- 畜舎内に温湿度計を置いて記録するなど、日頃から温度・湿度を観察しましょう。

《 2 飼養管理の改善》

全般

- 飼槽・飲水器の清掃と点検
- ミネラル・ビタミン等の補給
- 新鮮で冷たい水の給与
- 密飼いは避け異常家畜の早期発見を徹底
- 良質な飼料の給与を再確認
- 涼しい時間帯での給餌
- 衛生害虫の駆除
- こまめな除ふん

乳牛

- ・最高気温が25℃を越えた頃から、飼料の摂取量が減少してくる。
- ・切断長が長い粗飼料は、消化に時間がかかり、採食量が減少する。
- 濃厚飼料の給餌回数を増やす
- 重曹給与による第1胃 pH 調節
- 消化を良くするために長もの粗飼料は2cm 程度に細断
- サイレージ等の変敗に注意
- 緊急時は牛体への散水

肉牛

- ・繁殖雌牛の発情行動は、高温期になると不規則で微弱になりやすいので、授精適期を判断する発情確認が難しくなる。
- ・夏場はビタミンAの消耗が激しいことから、ビタミンA欠乏による飼料摂取量の低下や、水腫・失明などの事故が起こりやすくなる。
- 30分以上の牛群観察で発情発見
- ビタミンA剤の経口投与
- 涼しい時間に重点給餌
- 緊急時は牛体への散水

養豚

- ・豚は汗腺が退化し汗がかけないため、多呼吸による熱放散が主体である。
- ・母豚の授乳中は1日30ℓ程度の十分な飲料水を必要としている。
- 母豚は首筋への冷水滴下と頭部を中心にダクト送風
- 肥育豚の密飼いは避け通風を確保
- 交配は涼しい時間帯で、若雄で週1回、成雄で週2回程度

養鶏

- ・鶏には汗腺が無いいため呼吸による熱放散だけで体温調整をしている。
- ・暑熱時は、多呼吸になりがちで、血中炭酸ガスが過剰に放出されると、呼吸性アルカローシスが発生し産卵率や卵質が低下しやすい。
- 鶏舎内への細霧と換気
- 熱性多呼吸の場合は、塩化カリウムの飲水投与(割合0.5%)
- 飼料摂取時間を朝晩にシフトする

効果が出るよう、いくつかの技術を併用して対策を取りましょう